ピアレビュー委員会（第 3 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準 1	理念・目的

総評
0101　2013 年に、大学開学 50 周年記念夢構想事業委員（学部長を始めとする 8 名の教員と学部事務長）が研究科・専攻の教育研究上の目的、育成する人間像を再検討したうえで『第 1 回夢構想フォーラム』で披露し、卒業生および学外からの招待者から意見を募った。その上で、幅広い意見に基づいて、現行の研究科・専攻の教育研究上の目的および育成する人間像が設定された。 　惜しむらくは、研究科・専攻の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的との連関性が必ずしも確保されていないことである。この点については、すでに研究科でも十分に認識されていることから、近い将来、改善されるものと思われる[0101·0102a] [0101·0102b] [0101c]。 0120　大学ホームページ[0101·0102a] [0101c]、『大学院学生便覧』[0101·0102b]などで適切に公表されている。
長所・特色　＜箇条書き＞
0102　バイオサイエンス・バイオテクノロジーの主要な領域である「生命・食・環境」に関わる研究教育領域が簡潔明瞭に示されている[0102a] 。
留意点　＜箇条書き＞ 　＊各項に留意点レベルを記入　　【A】・・・緊急の改善を要する事項 　　【B】・・・検討を要する事項
特になし

ピアレビュー委員会（第 3 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準 2	内部質保証

総評
0203　平成 26（2014）年度に本学が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審した際に、研究科の自己点検を行っている。そこでは、博士前期課程および博士後期課程の現在の教育課程の特色が記されている。また、併せて、従来みられた教育課程に関わる問題点の特定と、それらへの対処等についても具体的に示している。 ただし、日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審した際に行われた研究科の自己点検・評価は、学部の自己点検・評価と比べると、必ずしも十分ではないように思われる[0203b]。また、このことから、現時点では研究科においては、方針および手続きに基づく内部質保証システムの構築が不十分であると思われる。 このような問題はあるものの、研究科において平成 26（2014）年度に行われた自己点検・評価、あるいは、研究科の基礎をなす学部において発足以来、数年おきに行われてきた自己点検・評価あるいはそれに準じる教育課程の改訂の経験、また、全学的なピアレビューの導入、さらに、自己点検・評価に対する問題意識の高さに鑑みると、今後「内部質保証」は確実に改善されていくものと思われる。
長所・特色　＜箇条書き＞
0203　全学的にピアレビューが導入される一方、研究科としても改善策の策定と実施を予定していることから、「内部質保証」への積極的な取り組みが期待される。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし

ピアレビュー委員会（第 3 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準4	教育課程・学習成果（1）

総評
0401・0402・0403　卒業認定・学位授与の方針（DP）および教育課程の編成 ・実施方針（CP）については、大学院教務委員会が審議・提案を行い、その後、研究科委員会で決定している。またその自己点検・評価についても、大学院教務委員会および研究科委員会が行っている。DP および CP については、『学生便覧』、大学ホームページ等で適切に公開されている[0403a]。 研究科の自己点検・評価の方法については、学部と比べると、まだ改善の余地があるとは思われるものの、現時点でもある程度の水準に達していると考えられる。それを裏付けるものとして、大学院教務委員会によって、語学科目の内容の充実化が図られたこと、CP に沿って応用生物学基礎科目として知的財産権特論が新設されたこと等があげられる[0403b][0403c]。
長所・特色　＜箇条書き＞
0401・0402・0403　DP と CP が整合的に定められたうえで、CP に基づく体系的な教育課程が編成されている。つまり、DP から教育課程に至るまでの一貫性が担保されている。[0101・0102a] 0403　大学院教務委員会において、教育課程の見直しが継続的に行われている[0403b][0403c]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし

ピアレビュー委員会（第３部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準4	教育課程・学習成果（２）

総評
0404・0405　シラバスに沿った授業運営、研究指導計画の明示と計画に基づく研究指導、シラバスに沿った成績評価、明確な修了要件、学位審査や修了認定の客観性、適切な学位授与など、多くの項目において、適切に取り組んでいる。これらの取り組みを支えるのは応用生物学研究科教務委員会であり、大学院教育について審議・提案を行い、それらを応用生物学研究科に諮る仕組みになっている[1120b]。ただ、単位の実質化のための履修登録単位数の上限設定はなされておらず、今後検討の必要がある[0403a]。
長所・特色　＜箇条書き＞
0404　年に２回開催される中間発表会において、指導教授に加え、応用生物学研究科全教員による助言を院生が受けられる体制が確保されている[0702c]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし

ピアレビュー委員会（第３部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準4	教育課程・学習成果（３）

総評
0406・0407　年に２回の中間発表会では、応用生物学研究科独自の評価シートを用意し、学習成果を測定している[0406a]が、学習成果に関する情報の把握と共有、エビデンスに基づく自己点検・評価、自己点検・評価結果に基づく改善・向上策などにおいて、今後改善すべき点があるように見受けられる。
長所・特色　＜箇条書き＞
0406　年に２回の中間発表会では、応用生物学研究科独自の評価シートを用意し、学習成果を測定している[0406a]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0406　エビデンスに基づく学習成果の点検･評価を研究科全体で行い、それに基づいた目標設定が望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第３部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準 5	学生の受け入れ

総評
0501・0502・0503　入学者受け入れの方針（AP）の公表、AP と入試形態との整合性、公正・公平な入学者選抜、適切な入学定員と在籍学生数の適正な管理、などにおいては適切に取り組んでいる[0501a][0501b][0501c]。一方、学生募集や入学者選抜に関し、点検・評価結果に基づいた改善・向上のための取り組みについては、今後検討の必要がある。また、2017 年度に中国の学術協定校から初めての受験者があったが、その選抜方法の適切性について今後検証していく必要がある[0504d]。
長所・特色　＜箇条書き＞
0503　収容定員に対する在籍学生数比率は、前期課程が 0.81、後期課程が 0.94 で、まずまずの充足率である[0602a]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし

ピアレビュー委員会（第 3部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準 6	教員・教員組織

総評
0602・0603・0604・0605　応用生物学研究科の教員組織の編成と FD 活動について、全体として適切に取り組まれている。特に教育研究活動、FD 活動は全学レベルで実施し、十分な体制が整えられている。また FD 活動では自己点検・評価とともに前年度の評価をもとに重点目標を設定するなど充実が図られている[0602a][0602b][0603a] [0604a][0605a]。 点検については全学的な取り組みとして、教員個人による自己点検・評価は年度当初と年度終わりに実施しているものの、研究科単位での教員組織として、特にその体制に関する自己点検・評価をするシステムは不十分であり、今後の教員組織の体制についてエビデンスのある点検を目指している。
長所・特色　＜箇条書き＞
0602　教員数は適切である。(博士前期課程の定員 48 名ならびに博士後期課程の定員 18 名に対し、講師以上の教員は前期課程 45 名、後期課程 39 名が専任教員として在籍）[0602a][0602b]。 0603　教員組織の編成を通じ、教育研究活動が適切に運営されている[0603a]。 0604　FD 活動を進め、教員の資質向上に取り組んでいる[0604a]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0605　教員組織の適切性について、点検のための目標設定、内容の検討が必要である。【B】

ピアレビュー委員会（第 ３部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準 7	学生支援

総評
0702　修学、進路について、手厚い適切な取り組みがなされている。修学では主指導教授と 2 名の副指導教授による体制をとり、年度毎に環境整備を行っている[0702b]。 『学生の生活に関する適切な支援』ではハラスメントなどの個別案件に注意をはらい、対応が必要になる案件に研究科として対応している。ただし、PDCA サイクルを回して改善する体制までは整っていない。 『インターンシップ』に関しては、「応用生物学学外研修」、「特別海外語学研修」をさらに開拓すべく、現在、フエ農林大学への短期留学プログラムを準備している[0702e][0702f]。 『学生の生活に関する適切な支援』のキャリア支援に関して、大学院生全員が学んだ研究分野を活かせる就職先の開拓に向け努力している[0702d]。
長所・特色　＜箇条書き＞
0702　大学院生の修学に伴う支援として、環境整備は年度ごとに適切に行っている[0702a]。 学生支援に有効な複数教員３名による指導体制がとられている[0702b]。 修学状況を把握し適切な支援が行えるよう研究中間報告会が実施されている[0702c]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0702　短期留学プログラムのさらなる推進が望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第 3部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準 8	教育研究等環境

総評
0802・0806　2016 年度に大学で策定された先端教育環境整備充実事業の計画に則り、学生院生共用研究機器室の整備が行われており、比較的利用率の低かった場所をより多くの学生が利用できるような施錠システムに改修し、分析装置など共用性の高い機器を集約されている[0802a][0802b][0802c]。 学生院生共用研究機器室の整備は 2017 年度を含む 2 カ年計画なので、まだ自己点検・評価をする段階まで到達していないが、大学院生の修学に伴う支援として、環境整備は年度ごとに適切に行っている。具体的には、デスクワークと実験用のスペースを年度ごとに個々の学生に対して割り振っているが、これらの取り組みを客観的に評価し、改善する試みはなされておらず、本自己点検・評価の取組みが PDCA サイクルを動かす大きな原動力になることを期待したい。
長所・特色　＜箇条書き＞
0802　研究設備と機器の整備を進めている[0802a][0802b]。 デスクワークと実験のスペースを毎年見直し、学生個々に提供できている[0802c]。 学生院生共用研究機器室の設置は学部内の設備を有効活用でき、個々の研究者が研究設備を購入しなくても良くなるため、応用生物学研究科の研究力を向上させることができているのは素晴らしい[0802c]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0806　教育研究等環境に関する点検・評価の確実な実施を検討されたい。【B】

ピアレビュー委員会（第 ３部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準 9	社会連携・社会貢献

総評
0902　事業計画に従い、夢構想事業の１つ食環境創造センターを設立した。このセンターは、生物機能開発研究所内に付置され、食品プラント、植物工場、給食実習設備を有機的に結び付ける組織である[0902a]。植物工場では、春日井商工会議所とともに『春日井サボテンプロジェクト』を推進しており、食品プラントを利用したサボテン加工食品の開発も行っている[0902b][0902c][0902d]。また、愛知県農業総合試験場や愛知県ペストコントロール協会と協定を締結しており、他には、日本食品衛生学会東海北陸ブロックと公開講演会を共催し、食品衛生における最新の情報を提供するなどしている[0902e][0902f][0902g]。ただ、これらの取り組みを客観的に評価し、改善する試みはなされておらず、本自己点検・評価の取組みが PDCA サイクルを動かす大きな原動力になることを期待する。
長所・特色　＜箇条書き＞
0902　食環境創造センターを設立し、設備間を有機的に結び、地域との連携を実施している[0902a]。 地域活性化事業「『春日井サボテンプロジェクト』は、春日井市の特産品を活用した地域独自の研究であり、サボテン加工食品の開発に貢献し、地域の活性化に大いに貢献しているのは素晴らしい[0902b][0902c][0902d]。 有害生物に関する研究を日本ペストコントロール協会と協定を結び進めている[0902f]。 第２回日本食品衛生学会の東海・北陸ブロック公開講演会を共催した[0902g]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし

ピアレビュー委員会（第 3部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	応用生物学研究科

基準 11	大学独自の評価項目

総評
1120　研究科委員会、主任会が規定に基づき運営されている。研究科委員会への議事は、事前に主任会で協議されている。教員資格審査委員会、奨学金選考委員会等を設置し、委員会構成及び適切な手続きの手順について、主任会において事前協議・承認を得た上で研究科委員会の承認を得ている。諸会議の通知は、メールにより事前通知し、議事録は議長の承認を得て本部へ提出している[1120a][1120b]。
長所・特色　＜箇条書き＞
1120　研究科委員会への議事は事前に主任会で協議することや、教員資格審査委員会、奨学金選考委員会等を設置し、委員会構成及び適切な手続きの手順について、主任会において事前協議・承認を得た上で研究科委員会の承認を得ていることなどが素晴らしい[1120b]。
留意点　＜箇条書き＞ ＊各項に留意点レベルを記入　【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
1120　教員資格審査委員会、奨学金選考委員会の運営規定について、整備されたい。【B】